

## 令和2年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○SSH3期目の指定のもと、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図り、資質・能力「5C」(*)を身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成を目指す。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。</p> <p>*5C 本校では、グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として育成を目指している。</p> <p>①Critical thinking and problem solving（批判的思考力と問題解決） ②Creativity and innovation（創造力と革新） ③Collaboration（協働力） ④Communication（コミュニケーション力） ⑤Challenge（挑戦力）</p>	<p>(1) 「自主自律」ワンランク上の「文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH2期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。今後は、入学してきた桃山高校生・保護者の期待に応えるべく、これまでの成果の上に立った、さらなる高みを目指した教育活動を展開していきたい。</p> <p>(2) SSH事業において、普通科・自然科学科ともども、GS課題研究の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が着実に次世代で活躍する人材としての資質・能力の育成につながっている。また、SSH事業3期目指定に向けて、SSH担当者会議を中心に計画の素案作りに努めた結果、指定を獲得することができた。今後は、3期計画の実践を着実に進め、SSHを学校の文化として成長させていきたい。</p> <p>(3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、進路実現に向けて、学校全体で最後まであきらめない指導を行えた。結果、国公立大学や私立の大学に、昨年度を超える、多くの生徒が現役合格できた。新しい大学入試制度への対応についても、着実に軌道に乗せることができた。今後は、難関大学進学に向けた組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を展開していきたい。</p> <p>(4) 新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、記述力や英語の4技能の向上に向けた取組など、組織的に計画的に取組を推進することができた。今後は生徒の多様性に目を向けた、「個別最適化した学び」の構築や、学びにおけるICTの利活用を進めていく必要がある。</p>	<p>(1) 「主体的学習者」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、学びにおけるICTの利活用、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」した学習指導等の研究・実践を進め、桃山高校の学びのデザイン再構築を行う。</p> <p>(2) 難関大学進学に向けた組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を展開する。</p> <p>(3) SSH3期1年目である今年度、「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を、教育活動全体に落とし込み、全校体制で実践していく。</p> <p>(4) 生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。</p> <p>(5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、桃山高校働き方改革を進め、生徒にとっても教職員にとっても魅力ある学校を作る。</p>

領域	重点目標	具体的方策
教務部	「主体的学習者」の育成に向けて、指導法等を研究し、創意工夫を活かした特色ある教育活動を展開する。	授業におけるICTの利活用を推進するため、教員研修として公開（研究）授業を実施する。
		「個別最適化」した学習指導法を研究するため、実践例を交流する機会を設ける。
生徒指導部	生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルの文武両道」への仕掛けづくりを行っていく。	球技大会において、個々に応じた種目を取り入れる。 体育祭において、学年を越えた繋がりを意識させる。
		文化祭において、クラスの一員であるということを認識させる。
		部活動において、加入率の向上と活動実績の広報活動を行う。
進路指導部	模擬試験を通して生徒の学習意欲に火をつける進路指導を展開する。	模擬試験の結果に見られる学力の特徴や志望状況等を教科主任会議で共有するとともに、各教科の協力を得て、個々の生徒が意欲的に学習に向かうための復習すべきポイントをまとめ、生徒にフィードバックする。
		ハイレベル模試の受験者を対象に、難関大学突破に向けて共に切磋琢磨して学習する意識を育み、次に取るべき具体的アクションを伝える事後指導の機会を設ける。
教育企画推進部	ICT環境の整備によって、本校の教育活動をより充実させる。	電子黒板の利用促進のための環境整備及び研修会などを実施する。
	本校の教育活動の柱の一つであるSSH3期目初年度の事業を実施する。	校務にICTを導入することによる業務改善の提案を行う。 SSH3期申請内容に基づいて初年度計画の取組を実施し、効果検証と成果普及を行う。
保健部	校内美化の徹底及び生徒の環境美化意識の醸成と、環境保全を自ら実行できる能力の育成。	『前日より美しく』をモットーに日々の清掃活動に取り組ませる指導を徹底する。また、月一回の大掃除の際に教室及び廊下の壁に付着したほこりを払う作業を加える。
		美化・保健の両委員会を協働させ、校内学習環境の調査・研究及び発表を行い、自らの学習環境の維持向上の意識を全校的に啓発する。
		安全点検を学期に1回実施する。
図書部	「5C」を身に付けた人材の育成、「主体的学習者」の育成に必要な桃山高校の「学び」を探究する。	図書委員による自主的、積極的な図書館運営（日々のカウンター業務や班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など）を行う。
		課題研究をはじめとする各授業での図書館の活用や読書感想文集の発行、教職員の図書推薦などの様々な仕掛けを試みる。
		「5C」に関する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介する。

領域	重点目標	具体的方策
第1学年部	<p>自己尊重の心や主体的な意欲などの非認知能力を育むことで、価値観の多様性の中で自己を確立し、主体的学習者となるために共に成長し合える集団を作る。</p>	<p>G S探究 I やLHR、学年通信等を連動させて、個々の生徒の見方・考え方を学年全体で共有する。価値観の多様性に気づかせながら、自分自身について内省させることで行動の変容につなげる。</p> <p>手帳を活用して生活習慣を確立し、いつ・どこで・何に取り組むのか、見通しのある具体的な学習計画を立てさせるとともに、振り返りを習慣化させることで、実際の行動につなげる。</p> <p>学級や個々の生徒の状況を日常的に交流・共有し、副担任も含めて複数の教員が多角的に生徒と関わる。教員それぞれの良さを生かし、主体的学習者のサポーターを目指す。</p>
第2学年部	<p>学校の中核となる学年にふさわしい、学校生活の様々な場面で、主体的、自律的に行動できる生徒を育てる。</p>	<p>ホームルームや面談など、さまざまな場面で、手帳を活用し、主体的な生活管理、学習管理を行う。</p>
第3学年部	<p>生徒の学習意欲に火をつけ、最後まで粘り強く学び続ける集団づくりを行う。</p>	<p>生徒と面談を行うときには、学年独自の面談シートを使い、面談目的を明確にする。</p> <p>学年集団への帰属意識が高まる学年通信を発行する。</p> <p>進路指導部や教科担当者との連携を密にして、生徒の弱みと強みを把握して、適切な支援を行う。</p>
事務部	<p>学習環境のICT化に向け、限られた予算の中でも優先的な予算編成を行う。</p>	<p>ICT先進校への視察旅費の確保。</p> <p>ICT化に向けての予算の確保。</p>